

「こどもの育ちを支えるための語り合い」

～こどもも大人もたのしくなる、語り合う園内研修～

はじめに

本冊子「こどもの育ちを支えるための語り合い」は、幼児教育・保育施設等において、子どもとおとながみんな楽しくなる幼児教育・保育を目指し、子どもを中心として語り合うことの重要性や、その語り合いをベースとして実施する園内研修の取組について御紹介します。

各幼児教育・保育施設等において、本冊子を参考としていただきながら、子どもを中心として語り合う園内研修に関する取組の一層の充実が図られるとともに、自園の現状に応じながら、できることから無理なく、そして主体的な取組が継続されることを願っております。

なお、本冊子は、広島市乳幼児教育保育支援センターが開催する人材育成のための意見交換会において、学識経験者をはじめ、広島市私立保育協会・広島市私立幼稚園協会・広島市保育園長会・広島市立幼稚園長会から御推薦いただいた委員の皆様より御意見をいただき作成いたしました。この冊子が皆様の園等における良好な職場風土の構築、さらには、園内研修の取組の参考となれば幸いです。

令和8年3月31日

広島市乳幼児教育保育支援センター

(広島市子ども未来局・広島市教育委員会事務局)



目次

目指す保育者の姿及び語り合いの重要性（P 3）

冊子の活用手順（P 5）

自園の現状確認（P 6）

自園の現状に応じた実践（P 9）

目指す保育者の姿及び語り合いの重要性

本市では、人材育成のための意見交換会において、委員の皆様より聴取した御意見を参考にして、目指す保育者の姿や幼児教育・保育の現場における語り合いの重要性について整理しました。

幼稚園教諭・保育士・保育教諭等は、公立・私立、幼稚園・保育園・認定こども園等といった所属する園等にかかわらず、自らの専門性を発揮しながら、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に基づいて、こども一人一人の特性に応じて柔軟に育ちや学びを支えていくことが求められています。また、保護者や地域住民等からの相談に応じ、必要な情報提供や助言を行うなど、家庭や地域における子育て支援に取り組むとともに、小学校以降の学びにつなげていくことのできる幼児教育・保育の展開が必要となってきます。そうした人材を育成するための仕組みを構築するに当たって、まずは、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等が目指す保育者の姿を明確にしました。

目指す保育者の姿

全てのこどもが幼児期の終わりまでに育てほしい3つの資質・能力とされる「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」を育むことができるよう、次の3つの観点により幼児教育・保育が行える保育者を目指します。

こどもの特性や発達に即した幼児教育・保育

心身の調和のとれた発達の基礎を培うために、こどもの特性や発達過程を理解し、発達に必要な体験等や発達の課題に応じた指導等を行うことなどにより、こどもの特性や発達に即した幼児教育・保育が必要であると考えます。

こどもとの信頼関係を基盤とする幼児教育・保育

こどもが安心感を持ち、様々な活動に取り組む体験を十分に積み重ねるために、応答的な触れ合いや言葉掛けを適切に行い、こどもの気持ちを受容し共感することなどにより、こどもとの信頼関係を基盤とする幼児教育・保育が必要であると考えます。

こどもの主体的な活動を引き出す適切な環境構成を行う幼児教育・保育

こどもの主体的な活動を確保するために、環境との関わりが重要であることを踏まえ、計画的に時間、空間、素材、自然、地域、人が相互に関連し合う環境を構成することなどにより、適切な環境構成を行う幼児教育・保育が必要であると考えます。

語り合いの重要性

(1) 幼児教育・保育の振り返り（評価）

幼児教育・保育の改善や充実には、振り返り（評価）が必要です。振り返り（評価）の充実には、一人の保育者だけではなく、幼児教育・保育に関わる保育者同士の語り合いが重要になります。振り返り（評価）が、個人からクラスへ、そして園内へと広がり、さらには、園外へと広がることで、語り合いの視点は広がり、多様な視点から幼児教育・保育を振り返ることができるようになると考えています。

(2) こども理解（児童理解）

幼児教育・保育を行うに当たり重要なこども理解については、一人の保育者がこどもの姿を見て、そのこどもの全てを理解できるものではありません。しかし、教育・保育の経験年数や所属などの立場によらず、複数の保育者がこどもの姿について語り合うことにより、保育者は多様な視点から気づきを得ることができます。そうすることで、こども理解を更に深めたり広げたりすることができるようになると考えています。

(3) 職場風土の醸成及び良好な関係の構築

こどもの姿や保育内容が多様な幼児教育・保育の現場において、こども理解や振り返り（評価）を多角的な視点で行うためには、各園の一人一人の保育者が所属する職場内で安心して気づきや考えを声に出せるよう、施設長や主任などによる受容的で支持的な関わりが重要になります。また、職場内の保育者同士が立場によらず、こども理解や保育内容等について、その気づきや考えを適切に伝えたり受け止めたりし合うことで、風通しの良い職場風土の醸成や良好な関係を構築していくことができるようになると考えています。

以上のことから、幼児教育・保育の振り返り（評価）、こども理解、職場風土の醸成及び良好な関係の構築の3つの視点から、語り合いが重要であると考えています。

冊子の活用手順

手順1 自園の現状を確認する。

園内研修チェックリスト (P7) を実施し、**チェックリストの結果について** (P8) で自園の現状を確認する。

手順2 カラーゾーンを選択する。

手順1を踏まえ、自園において、園内研修の取組を行うに当たり、**カラーゾーン(三つの視点)**の詳細をP10~P15で確認し、その中から現状に合ったカラーゾーンを選択する。

手順3 実践事例を参考にする。

P10~P15に記載の各カラーゾーンや、P16ページに記載のURL及び二次元コードから、規模や課題などが自園の現状に近い事例を参考にし、自園の園内研修の取組について計画する。

手順4 園内研修を実施する。

手順3で計画した「こどもを中心とした語り合い」をベースとした園内研修を実施する。

※ 語り合いが重要ですので、形式に捕らわれすぎないように気を付けましょう。

手順5 園内研修を振り返り、PDCAサイクルを実施する。

園内研修を実施した後は、語り合ったこと、考えたこと、気付いたこと、学び得たことなどを生かして、次の保育の計画、実践、振り返り(評価)を繰り返す。

このように、保育実践の取組と、振り返り(評価)を繰り返すことにより、園内のこども理解、幼児教育・保育や幼保小接続の取組の振り返り(評価)を行い、園内風土をより一層充実させ、自園の幼児教育・保育の質の向上や保育者の育成へつなげる。

自園の現状確認

自園の園内研修の現状をチェックリストで確認してみましょう。

1 チェックリストを選択する。

次ページの園内研修チェックリスト（P7）の各項目に✓を記入しましょう。

園内研修チェックリスト				
区分	自園のことについて、以下の各項目を確認してみましょう。 (主語を「自園では」にして各項目を読み、右の欄に✓を入れましょう。)	そう思う	やや思う	そう思わない
A	① 気持ちよく挨拶をしている。			
	② 助け合って仕事をしている。			
	③ 保育中の気付きや感じたことを気さくに話している。			
	④ こどもにどのように育ってほしいか話し合っている。			
B	⑤ 一人一人の職員が持っているこどもの見方を共有している。			
	⑥ こどもが			
	⑦ 多様な			
	⑧ こどもの			
	⑨ 保育が			
	⑩ 面を知			
	⑪ 若手の保育者が経験豊富な先輩保育者の経験をヒントにして保育をしている。			
C	⑫ 園長・主任が言うことが正解であるという雰囲気ではない。			
	⑬ 園長・主任が職員と一緒にこどもの姿を語り、保育について考え、チームで園内の保育をつくる雰囲気がある。			
	⑭ こどもの姿を踏まえ、こどもの育ちについて振り返っている。			
	⑮ 保育中のこどもの姿を踏まえ、保育者の支援について振り返っている。			
	⑯ 保育中のこどもの姿を踏まえ、環境構成・保育内容について振り返っている。			

このチェックリストは、
7ページに掲載しています。

2 チェックリストの結果を確認する。

選択したチェックリストの各項目に✓を記載したら、チェックリストの結果について

(P8)を参考にして自園の現状を確認しましょう。

チェックリストの結果について	
以下を参考にして、チェックリストの結果を確認し、カラーゾーンを選択して取組をしてみましょう。	
✓が多い区分は、どれでしたか？	
「そう思う」、「やや思う」、「そう思わない」の✓の数を確認して、カラーゾーンを選択しましょう。	
「そう思う」	満足を得られる を生かしなが いきましょう。
このチェックリストの結果については、 8ページに掲載しています。	
「やや思う」に✓が多い区分	・・・ この区分については、手応えを得つつも、更なる 充実を期待できる点が多いようです。良好で充実した 取組に向けては、「そう思う」に✓が付くよう工夫 していけるといいですね。
「そう思わない」に✓が多い区分	・・・ この区分については、課題や改善の必要性を感じ

園内研修チェックリスト

区分	自園のことについて、以下の各項目を確認してみましょう。 (主語を「自園では」にして各項目を読み、右の欄に✓を入れましょう。)	そう思う	やや思う	そう思わない
A	① 気持ちよく挨拶をしている。			
	② 助け合って仕事をしている。			
	③ 保育中の気付きや感じたことを気さくに話している。			
	④ こどもにどのように育てほしいか話し合っている。			
B	⑤ 一人一人の職員が持っているこどもの見方を共有している。			
	⑥ こども理解を大切にしようとしている。			
	⑦ 多様なこどもの姿について理解を深めている。			
	⑧ こどもの思いや願いについて、想像し考えたことを共有している。			
	⑨ 保育がうまくいかなかった際に、ネガティブに捉えるだけでなく、「新たなこどもの一面を知ることができた。」とポジティブに捉えている。			
	⑩ 若手の保育者が経験豊富な先輩保育者の経験をヒントにして保育をしている。			
	⑪ 園長・主任が言うことが正解であるという雰囲気ではない。			
C	⑫ 園長・主任が職員と一緒にこどもの姿を語り、保育について考え、チームで園内の保育をつくる雰囲気がある。			
	① こどもの姿を踏まえ、こどもの育ちについて振り返っている。			
	② 保育中のこどもの姿を踏まえ、保育者の支援について振り返っている。			
	③ 保育中のこどもの姿を踏まえ、環境構成・保育内容について振り返っている。			
D	④ 保育について、計画、実践、反省・評価・環境の再構成を循環している。			
	⑤ 保育中のこどもの姿を踏まえ、こどもの育ちについて語り合い、振り返っている。			
	⑥ 保育中のこどもの姿を踏まえ、保育者の支援について語り合い、振り返っている。			
	⑦ 保育中のこどもの姿を踏まえ、環境構成・保育内容について語り合った後に、環境の再構成をしている。			
E	⑧ 保育が計画通り進行したのかだけでなく、保育中のこどもの育ち、保育者の関わり、環境構成・保育内容など、多面的に振り返った後に、環境の再構成をしている。			
	⑨ 園内で互いの保育を参観し合う機会がある。			
	⑩ 園内で職員が互いの保育を参観し、こどもの姿を中心にして気付きや、感想を語り合う機会がある。			
F	⑪ 区分 E-⑩で語り合ったことが日々の保育に生かされている。			
	⑫ 保育中のこどもの姿から、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえて保育の振り返り（評価）を行い、次の保育の計画、実践、反省・評価の循環に繋げている。			
	① クラス単位で学識経験者、専門家、乳幼児教育保育アドバイザー等を招き、自園での保育参観を踏まえ、助言を受けることや保育中のこどもの姿を中心に語り合う機会がある。			
	② 区分 F-①で語り合ったことを次の保育に生かしている。			
	③ 近隣の小学校・幼稚園・保育園・認定こども園等の教諭や保育者が自園の保育を参観する機会がある。			
	④ 区分 F-③で参観したことを基に、保育中のこどもの姿を中心に語り合う機会がある。			
	⑤ 区分 F-④で語り合ったことを小学校と連携して幼保小接続の更なる促進に生かしている。			
⑥ 園単位で学識経験者、専門家、乳幼児教育保育アドバイザー等を招き、自園での保育参観を踏まえ、保育中のこどもの姿を中心に語り合い、助言を受ける機会がある。				
⑦ 区分 F-⑥で語り合い、助言を受けたことを自園の保育の改善や更なる質の向上に生かしている。				

チェックリストの結果について

以下を参考にして、チェックリストの結果を確認し、カラーゾーンを選択して取組をしてみましょう。

✓が多い区分は、どれでしたか？

「そう思う」、「やや思う」、「そう思わない」の✓の数を確認して、カラーゾーンを選択しましょう。

「そう思う」に✓が多い区分 この区分については、達成感や満足感を得られる点が多いようです。引き続き、強みを生かしながら、良好で充実した取組を継続していきましょう。

「やや思う」に✓が多い区分 この区分については、手応えを得つつも、更なる充実を期待できる点が多いようです。良好で充実した取組に向けては、「そう思う」に✓が付くよう工夫していけるといいですね。

「そう思わない」に✓が多い区分 この区分については、課題や改善の必要性を感じている点が多いようです。乳幼児教育保育アドバイザーを活用するなどして、まずは、「やや思う」に✓を付けられるようにしていくことが重要になると考えられます。

A から F の区分を確認しカラーゾーンを選択しましょう。

チェックリスト内の区分 A～F は、以下に記載しているとおおり、自園の現状を確認する際の参考にすることができます。

- A . . . 園内のコミュニケーションについて
- B . . . 園内の雰囲気について
- C . . . 保育者自身の振り返り（評価）について
- D . . . 職員間での振り返り（評価）について
- E . . . 園全体での振り返り（評価）について
- F . . . 外部を交えた取組について

※ カラーゾーンの選択には、以下を参考にしてください。

- ・区分 AB に課題がある場合は、ブルーゾーンをおすすめします。
- ・区分 CDE に課題がある場合は、グリーンゾーンをおすすめします。
- ・区分 F に課題がある場合、若しくは、課題を感じない場合には、オレンジゾーンをおすすめします。

自園の現状に応じた実践

チェックリストで自園の現状を確認したら、カラーゾーンを選択しましょう。

この冊子では、こどもの姿を中心に語り合う園内研修を、自園の現状に応じて実施する際の目安となるよう、三つの視点を設けました。

これらの視点は、以下のとおり、ブルー・グリーン・オレンジの3色で色分けしています。園内研修は、これらの視点が相互に影響し合うことで充実していきます。自園に合ったカラーゾーンを選択して取組を始めてみましょう。

カラーゾーン（三つの視点）



※ 三つの視点の詳細については、次ページ以降に記載しています。

- ・ ブルーゾーン・・・【P10】
- ・ グリーンゾーン・・・【P12】
- ・ オレンジゾーン・・・【P14】



ブルーゾーン（園内の風土づくり）

このような園にお勧めします。

- ・ 職員同士が楽しく気軽に話せるようになりたい。
- ・ 職員同士が安心して自分の考えを出せるようになりたい。
- ・ 職場内の良好な人間関係を構築し、風通しのよい職場にしたい。
- ・ 園内研修をしたことがない。
- ・ 語り合いの始め方が分からない。 など

「まず、こどものことを語ってみよう！」 というカラーゾーン！

- ・ 保育内容や園内業務ではなく、こどもの姿を語り合しましょう。
- ・ 職員がそれぞれの立場にかかわらず、こどもの姿を見て、気づいたことや、感じたことを語り合しましょう。
- ・ 職員間でこども理解を深めましょう。
（“雑談”や“議論”ではなく、“対話”するイメージ）

ブルーゾーンのいいところ。

こどもの姿を語り合うことを積み重ねていくうちに、職員間で多様な見方や考え方があることを認識し合えるので、語り合いが楽しくなり、様々な考えを出し合うことにつながります。そうすることで、「このような園にお勧めします！」（本ページ上部）にあるような悩みが徐々に解消されていくと考えられます。





ブルーゾーンの事例



ブルーゾーンで取り組みやすい事例には、以下のようなものがありますので、参考にしてください。

また、P16の園内研修情報も参考にしてみてください。

事例1：「保育中のこどもの様子を写した写真を用いて語り合いました！」

まず、保育中のこどもの遊びや生活の様子の写真を1枚準備する。
次に、写真に写るこどもの気持ちや背景等を保育者が想像し、職員同士で想像したことを語り合う。



事例2：「保育雑誌を活用して語り合いました！」

まず、こどもについて掲載した保育雑誌の内容を1つ準備する。
次に、職員がそれぞれに掲載内容を読んで、気付きや感想を語り合う。



事例3：「文部科学省の動画などを視聴して語り合いました！」

まず、文部科学省の動画（こどもの様子が分かる幼保小接続期や幼児教育の指導参考資料等）を1つ準備する。
次に、動画を視聴した職員同士で、気付きや感想を語り合う。



💡 語り合いのポイント 💡

- ・ 正解探しや何かを決めようとせず、相互理解の姿勢を大切にする。
- ・ こどもを真ん中にして、こどもにとってどうなのかという視点で立場によらず一緒に考え語り合う。





グリーンゾーン（園内で保育を振り返る）



このような園にお勧めします！

- ・ 自園の保育の不安を解消したい。
- ・ 保育実践力を向上させていきたい。
- ・ 他の職員と保育の振り返り（評価）を行いたい。
- ・ 自園の保育の質を向上させたい。
- ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領に沿って自園の保育の振り返り（評価）を行いたい。 など

「園内の職員が共に保育を振り返ろう。」 というカラーゾーンです！

- ・ 自分のクラス、同年齢のクラス、3歳以上又は未満のクラス、園全体といったように、一緒に保育を振り返る職員の規模を園内で広げてみましょう。
- ・ こどもの姿を語ることをベースとして、園内の職員が気付きや感想を語り合い、それを踏まえて保育の振り返り（評価）を行いましょ。
- ・ 園内で振り返ったことを踏まえ、次の保育を生み出すことにつなげていきましょう。

グリーンゾーンのいいところ。

こどもの姿を中心に語り合い、園内の職員の気付きや感想を踏まえて、ポジティブに保育の振り返り（評価）をすることにより、多面的にこどもの姿が捉えられ、より深いこども理解に基づいた保育を実践することが期待できます。そうすることにより、「このような園にお勧めします！」（本ページ上部）にあるような悩みが徐々に解消されていくものと考えられます。



グリーンゾーンの事例



グリーンゾーンで取り組みやすい事例には、以下のようなものがありますので、参考にしてください。

また、P16の園内研修情報も参考にしてみてください。

事例1：「こどもの様子の分かる写真を保育者が持ち寄って語り合いました！」

まず、各クラスの保育者が、自分のクラスの保育中のこどもの遊びや生活の様子が分かる写真をそれぞれ持ち寄る。

次に、グループに分かれて、写真を撮った職員が撮影時の様子を伝え、グループ内でこどもの気持ちや背景等を話し合う。



事例2：「園内で公開保育をして語り合いました！」

まず、園内でそれぞれのクラスが他の職員に保育を公開する。その際、参観する職員は保育中のこどもの様子を写真に撮る。

後日、写真を撮った職員が撮影時の様子を伝え、気付きや感想を語り合う。



💡 語り合いのポイント 💡

- ・ 語り合いをする際には、思考や視点が整理しやすくなるよう、必要に応じてウェブマップや付箋等を活用する。
- ・ こども理解をより広げたり深めたりすることにつながるよう、職員が多い園では、グループに分かれて語り合い、各グループで語り合ったことを全体で共有する。





オレンジゾーン（外部を交え保育を振り返る）



このような園にお勧めします！

- ・ こども理解や遊び、環境構成の視点を広げたい。
- ・ 近隣の園の保育者や小学校教諭、地域の方などと一緒に、自園の保育を通して語り合いたい。
- ・ 幼保小接続に向けて小学校との連携を充実させたい。 など

「広い視野を持って自園の保育を向上させよう！」 というカラーゾーンです！

- ・ 自園の保育者だけではなく、近隣園の保育者や小学校教諭、地域の方と顔を合わせ、こどもの姿を中心に気付きや感想を語り合い、外部の意見を踏まえて自園の保育の振り返り（評価）を行いましょう。
- ・ 外部の意見を踏まえて振り返り（評価）を行ったことを生かし、次の保育を生み出すことにつなげていきましょう。

オレンジゾーンのいいところ。

こどもの姿を中心に語り合い、園内外の職員の気付きや感想を踏まえて、ポジティブに保育の評価をすることにより、多面的にこどもの姿が捉えられ、より深いこども理解に基づいた保育実践が期待できます。また、近隣園や小学校、地域との連携が促進されることも期待できるため、「このような園にお勧めします！」にあるような悩みが徐々に解消されていくものと考えられます。



オレンジゾーンの事例



オレンジゾーンの事例には、以下のようなものがありますので、参考にしてください。

また、P16の園内研修情報も参考にしてみてください。

事例1：「公開保育を実施し、保育者、小学校教諭等と語り合いました！」

まず、「どうすれば子どもにとってよりよい保育ができるか」といったことや、自園の保育の方針や特色などについて、園内の職員が日頃から語り合う。

次に、子ども理解の視点がより広がり、深まるよう、事前に参観の際に参加者に見てほしい視点を示し、自園の保育を近隣園の保育者、小学校教諭に公開し、保育中のこどもの姿を中心に語り合う。



事例2：「外部講師を招いて、ビデオカンファレンスをして語り合いました！」

まずは、自園の保育についての課題等を捉え、その課題解決のために、適切な助言を受けられる学識経験者や専門家などを決めて研修講師として依頼する。

次に、講師が確定し園内研修の日時やテーマを決定した後、自園の保育中のこどもの遊びや生活の様子を動画に収める。

園内研修当日は、講師と職員が動画を視聴し、こどもの姿を中心に語り合い、研修の最後に講師から助言を受ける。



💡 語り合いのポイント 💡

- ・ 施設類型の異なる他園の保育者や小学校教諭との語り合いでは、自園だけでは気付きづらい視点を得られることがあるので、語り合いでは十分意見を出してもらう。
- ・ 外部講師を招く際には、語り合いの意義を事前によく理解してもらい、研修当日の保育者の様子や気付きを踏まえた助言を受けられるようにする。
- ・ 職員が外部の研修で学んだことを、自園に持ち帰り、共有するなどして学びにつなげる。



園内研修に関する事例

【園内研修に関する事例 (園内研修情報)】



URL : <https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/kosodate/1021253/1025966/1006049/1025973/1012973.html>

二次元コード :



【幼保小接続に関する事例 (架け橋だより)】

URL : <https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/kosodate/1021253/1025966/1006049/1025973/1041271.html>

二次元コード :



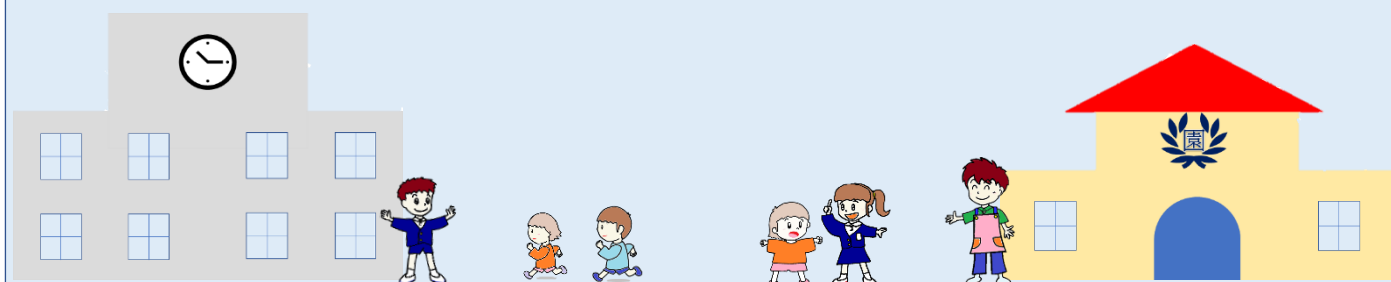
広島市乳幼児教育保育支援センター

〒730-8586 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号

TEL : 082-504-2833

E-mail : nyuyouji@city.hiroshima.lg.jp

Home page : <https://www.city.hiroshima.lg.jp/living/kosodate/1021253/1025966/1006049/index.html>



本冊子は、乳幼児教育保育支援センターが主催する人材育成のための意見交換会において、令和6年度から令和7年度の二年間にわたり、学識経験者をはじめ、広島市私立保育協会・広島市私立幼稚園協会・広島市保育園長会・広島市立幼稚園長会から御推薦いただいた委員の皆様より御意見を頂き作成いたしました。

作成に御協力いただいた委員の皆様について、以下に御紹介します。

【令和6年度及び令和7年度 人材育成のための意見交換会構成員】

氏名	所属	冊子作成に係る期間
深澤 悦子 氏	広島都市学園大学 子ども教育学部子ども教育学科	令和6年度・令和7年度
伊藤 唯道 氏	広島市私立保育協会 副理事長	令和6年度・令和7年度
山村 圭司 氏	広島市私立幼稚園協会 理事・教育研究委員長	令和6年度・令和7年度
川西 千奈美 氏	広島市保育園長会 代表	令和6年度
岩本 弥和 氏	広島市立幼稚園長会 副会長	令和6年度
栢木 章子 氏	広島市保育園長会 副会長	令和7年度
岡田 幸子 氏	広島市立幼稚園長会 副会長	令和7年度

タイトル：「こどもの育ちを支えるための語り合い」
～こどもも大人もたのしくなる、語り合う園内研修～

発行日：令和8年3月31日

発行者：広島市乳幼児教育保育支援センター
(広島市こども未来局・広島市教育委員会事務局)